

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月5日実施)	総合評価(3月27日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>学習意欲を高め、基礎学力や社会性を身につけさせるとともに、有意義な高校生活を送ることができる仕組みを充実させる。</p> <p>(1) 生徒の基礎学力の習得と希望進路の実現に向けた学力向上を図る。</p> <p>(2) 授業改善により、生徒の主体的で協働的な取組を促す。</p>	<p>・学習意欲を高めることで、生徒の基礎学力の向上と、進路実現に向けたさらなる学力向上を目指す。</p> <p>・生徒の『主体的・対話的で深い学び』につながる授業改善に取り組む。</p> <p>・新しい学習指導要領に向けて、さらなる学習意欲の向上・基礎学力の充実のための仕組みづくりをめざす。</p>	<p>・『学び直し』の仕組みを活かしつつ、土曜教室や、補習授業等を活用して、さらなる学力の向上に努める。</p> <p>・研究授業・研究協議に向けて、生徒の『主体的・対話的で深い学び』に向けた授業づくりに、年間を通して組織的に取り組む。</p> <p>・『学び直し』の仕組みについて、クリエイティブスクールとしての取り組みを総括し、新学習指導要領に向けた新しい仕組みづくりを進める。</p>	<p>・生徒の学習意欲が向上し、学び直しの実感や学力向上の実感・学力向上に向けた意識が生徒に生じるか。</p> <p>・年間を通して、生徒の『主体的・対話的で深い学び』を意識した授業づくりが行われたか。</p> <p>・新指導要領に向けたカリキュラム編成に向けて、方向性を示すことができたか。</p>	<p>・学び直しの授業の中で、生徒の意識の向上に努めることができた。</p> <p>・教科を超えたチームによる組織的授業改善の研究により、『生徒が主体となる授業づくり』に取り組む様々な工夫が提案された。</p> <p>・Cromebookの導入により、G Suiteを活用した授業づくりが、行われるようになった。</p> <p>・新学習指導要領に向けて、『学び直し』を中心とした、新しい教育課程編成に取り組むことができた。</p>	<p>・新教育課程に向けて、学び直しの授業をどう発展・継続させ、教育課程全体を編成していくかが課題となる。</p> <p>・生徒が自分の端末や、Cromebookなどを活用して、主体的に活動する授業づくりを、多くの教員ができるようにしていきたい。</p>	<p>・「学び直し」の取組みにより、子どもの意識が前向きになり、学習への意欲がわき、確実に力がついたと思う。</p> <p>・「学び直し」で自信が付き、積極的に自分で取り組めた。</p> <p>・「学び直し」でもついていけない生徒に対して、提出物の催促など、家庭にも連絡していただけたことありがたい。(今でも十分やっていたいている場合もありますが…)</p>	<p>・生徒の主体的な学びの実現のため、今年度より導入されたCromebook、G-Suiteを積極的に活用することにより、多くの生徒が興味を持って授業参加することができた。今後は、より多くの教員が活用することで、生徒の活用範囲も広がると考えられる。</p> <p>・新学習指導要領に向けたカリキュラム編成の中で、クリエイティブスクールの柱となる「学び直し」の取組について、学校全体の意見を取りまとめ、一定の方向性を示すことができた。</p> <p>・生徒の多様な進路希望を実現するため、特に進学を希望する生徒への学習支援について検討する必要がある。</p>	<p>・生徒の主体的な学びを促すため、今年度より導入された様々な取組みについて、より多くの教員が研修等の機会を通じて理解し、生徒へ提供することが必要となる。</p> <p>・新学習指導要領に沿ったカリキュラム編成を行う上で、クリエイティブスクールとしての本校の教育目標を再度確認し検討することが必要となる。</p> <p>・一人ひとりの進路希望を実現させるため、外部教材の活用も視野に入れ、検討を行う。</p>
2	生徒指導・支援	<p>(1) シチズンシップ教育の一環として規範意識の一層の向上を目指す。</p> <p>(2) 個に応じた生徒指導・支援を充実させる。</p>	<p>・全体指導および個別指導により生徒の社会性・規範意識を涵養する。</p> <p>・生徒の個別理解に努め、それらに合った課題設定と支援策の検討を行う。</p>	<p>・SSEにより自他を尊重する気持ちと社会性を涵養する。</p> <p>・喫煙、薬物乱用防止等講演会を通じて規範意識の向上に努める。</p> <p>・全校集会、学年集会において、公共マナーの遵守を呼びかける。</p> <p>・学年指導、特別指導において個々の問題に応じた指導を心がける。</p> <p>・個に応じた支援やそのチーム化をめざし、課題を抱える生徒の理解と関係職員間での情報共有に努める。</p> <p>・SC, SSW, 多文化教育コーディネーターなどの専門性をチーム支援に取り込んだ生徒支援を行う。</p>	<p>・効果的にSSEを実施できたか。</p> <p>・各種講演会による効果があったか。</p> <p>・全校集会等において公共マナーについて呼びかけられたか。</p> <p>・生徒支援をチーム化し、情報共有を行いながら生徒の個別理解がすすめられたか。</p> <p>・他職種の専門性を生かした生徒支援策が実行できたか。</p>	<p>・各担任の工夫により生徒に伝わるSSEを実施できた。また、研修会により、職員のSSEに対する理解が深まり、ファシリテートのスキルを上げることができた。</p> <p>・集会等で公共マナーを守る呼びかけをした。</p> <p>・週1回の教育相談コーディネーター会議に挙がる個別支援ニーズの高い生徒の支援策を複数の関係職員で検討し実践した。</p> <p>・年間を通じSC, SSW, 多文化教育コーディネーターなど他職種を巻き込んだ効果的な支援策を実践した。</p>	<p>・年数回ではなく、LHRなどの時間を利用して短時間でももっと多くSSEを担当が実施できるよう、多くのエクササイズを準備することが必要だと思われる。</p> <p>・多くの生徒は公共の場でのマナーを守っている。しかし、一部の生徒は守ることができていない。呼びかけ以外に、ロールプレイ・個別の指導などによる改善が必要。</p> <p>・支援ニーズを抱える生徒の多さとその課題の複雑さが適切で十分な支援につなげきれない要因になっている。職員全体の支援スキルアップを図る研修等を積み上げる必要がある。</p> <p>・SC, SSW, 多文化教育コーディネーターに限られた勤務時間の中で他職種と連携する難しさが解消しきれない。効率よく適切な連携をするための方策を研究していく必要がある。</p>	<p>・担任2人制で、さまざまな生徒の状況への理解度が高く、ありがたい。</p> <p>・社会に出ると様々な悪い誘いなどがあるので、スマホの使用などの恐ろしい事例があると、正しく成長していけてよい。</p> <p>・保護者としてやるべきことなども共有していけたらよい。</p>	<p>・本校の生徒に必要な規範意識や求めたい行動事例を全職員で研修機会を利用し検討を行うこと、学校におけるすべての場面で指導、支援を行うことができた。</p> <p>・社会性や規範意識を身につけられるように支援を続ける中、生徒のコミュニケーションツールが、SNSを中心とした多様な方法に移行し、さらなる支援の方法が必要となってきた。</p> <p>・生徒一人に対する、複数担任での対応や学年を超えた学校全体での対応を行うことで、共通理解が図れ、統一した支援へとつなげることができた。</p> <p>・SCやSSW等の支援は不可欠である。今後もより一層の連携を図り、生徒支援へつなげていくことが必要である。</p>	<p>・本校生徒に求める規範意識等については、職員全体の共通理解がより一層必要となる。職員研修を充実させ、全ての職員が日常的に支援できるようにする。</p> <p>・学校生活を送るうえで最低限必要なマナーやコミュニケーションスキルを学校生活の様々な場面で指導し、行動の定着を図る。</p> <p>・教育相談コーディネーターを中心とした学年の枠を超えた支援が必要となる。職員研修やケース会議を定期的実施し、全ての教員が共通の理解を図る。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月5日実施)	総合評価(3月27日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	(1) 計画的な進路指導の実践により、生徒一人ひとりの進路意識を育てるとともに進路希望の実現を支援する。  (2) 生徒の自主的・主体的な活動を通して生徒のリーダー性を高める。	・進路意識を高め、計画的な進路指導により希望進路の実現を支援する。  ・生徒の自主的・主体的な活動を促進するため、中心生徒のリーダー性を育成する。	・「キャリアの時間」を計画的に運用し、「ガイダンス」・「講演会」・「キャリアノート」等を通して、生徒の進路意識を高めていく。  ・行事や部活動などの生徒活動を通して、生徒の主体性を高めたり、リーダー性が発揮されたりする場を提供する。	・卒業生の進路未定・進学準備等の割合を減らすことができたか。  ・行事や部活動などの生徒活動が生徒の主体的自主的運営で進められたり、中心生徒のリーダー性が発揮されたりしたか。	・昨年度と比較すると卒業生の進路未定・進学準備等の割合は微増した。(15%→16%)  ・生徒会役員や各部活動の生徒を中心に生徒会行事、サポートチームを中心に学校説明会の運営が進められた。	・「キャリアの時間」は計画的に運用されており、生徒に進路決定を促している。今年度は結果として進路未定・進学準備等の割合が微増したが、今後も運用を継続していく。  ・生徒会活動をより生徒主体のものに昇華させられるような支援と指導を行っていく。また、こういった活動を学校全体が知れるような仕組みや機会を作っていく。	・常に先生方に相談できる環境にあるので、1年のうちから自分の目標に向かって進むことができた。  ・迷ったときや悩んだときは、親よりも先生を頼っていた。  ・生徒の頑張っている姿を支えてくれた先生には感謝している。	・SCCやコンソーシアムサポーターと連携を図り、就職支援の充実を図ることができた。今後は、進学への支援をより一層行い、進路未定・進学準備等の割合を減らす必要がある。 ・生徒会行事や学校説明会等、生徒会役員や釜利谷サポートチームが中心となり、主体的に行事運営することができた。今後は一人でも多くの生徒が自ら進んで行事等に参加できるよう支援が必要となる。	・卒業生の進路未定・進学準備等の割合を減らすために、1年生から系統的なキャリア教育をより一層充実させるため、関係グループと各学年が密に連携を図り、生徒への指導、支援を行う。 ・SCCやコンソーシアムサポーターとより一層連携を密にし、本校の就職支援を充実させる。
4	地域等との協働	地域に根ざし、地域に開かれた学校づくりを推進する。	・広報活動や交流活動等のさらなる充実により、開かれた学校づくりを推進する。	・中学校および地域への広報活動により、クリエイティブスクールとしての釜利谷高校のイメージアップを図る。 ・生徒によるボランティア活動の充実を図る。	・中学校への広報紙等の配付や学校訪問を通して釜利谷高校の魅力を伝えることができたか。 ・釜利谷サポートチームの人数を増やし、活発な活動ができたか。	・昨年度同様、横浜市全域および近隣の市区町村に学校案内等を発送した。  ・1年生が16名加入し、学校説明会のサポート等、活発な活動ができた。	・毎年7月の成績処理の時期に中学校訪問に行くことになり、なかなか多くの中学校を回れないが、今年度は管理職も加わることで、例年より多くの中学校を訪問し、本校を知ってもらうことができた。 ・今後も新入生向けの部活動紹介や学校説明会などで、活動をアピールしていくことが大切である。	・保護者として、PTA南地区交通安全大会に参加し、他校の活動を知ることができた。  ・一部の生徒(サポートチーム)だけでなく、多くの生徒がボランティアに参加できるよう工夫がみられるとよい。	・学校説明会時に在校生による説明や学校案内を行うことで、生徒の積極的な活動を示すことができた。 ・地域貢献活動として、釜利谷サポートチームによる近隣小学校への防犯教室や、吹奏楽部による近隣施設への演奏会の実施を行うことができた。	・生徒が主体的に校外での地域貢献活動ができるよう、活動場所の開拓を行う。 ・ホームページをCMSに移行することに伴い、ホームページを活用した広報活動を充実させる。
5	学校管理 学校運営	(1) 事故・不祥事を防止するとともに、教職員の能力を生かした円滑な学校運営を行う。  (2) 防災意識を高め、安全で安心できる教育環境を確立する。	・教職員への啓発のための研修を実施し、円滑な学校運営を行う。  ・防災意識のさらなる向上をすすめるための環境整備を行っていく。	・管理職と協力の下で特に適正な私費会計処理の徹底を進めていく。  ・防災意識のさらなる向上をすすめるために、DIG訓練や現実に即した訓練の実施と、防災用品の必要性を啓発していく。生徒への防災意識を高めていく。	・事故ゼロに向けた取り組みを行ったか。 ・情報の共有化と業務文書の整理および管理の徹底が図れたか。  ・防災意識が高められたか。いつ災害が発生しても万全な体制がとれるか。	・会計処理に関して概ね良好であった。  ・防災に関しては南海トラフにおける地震はもちろん、水害等の避難や土砂災害など幅広い災害を想定したマニュアル作りに取り組んだ。	・防災に関してはDIGの参加者を拡大し少なくとも本校生徒全体が情報を共有できるよう取組が必要である。 ・実際に発生した災害をどれだけ現実のものとしてとらえていくかをさら考えていく。	・大事な連絡は学校からのお知らせメール(マチコミ)でいただけなので助かる。	・事故ゼロに向け、職員研修や定期的な情報共有を行ったことにより、適切な学校運営を行うことができた。  ・防災意識を向上させるため、防災訓練を計画したが、夏季の実施を計画したため、暑さ対策の必要があり、時期の検討が課題となった。	・コンプライアンス保持のため、校内研修を充実させ、職員の危機意識を定着させる。  ・全職員によるDIG研修を実施し、防災意識を高める。